

# Oracle® Enterprise Manager

System Monitoring Plug-in インストール・ガイド for IBM DB2 Database

10g リリース 5 (3.0.1.0.0)

部品番号 : E05842-01

原典情報 : E10488-01 Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in Installation Guide for IBM DB2 Database, Release 5 (3.0.1.0.0)

2007 年 10 月

---

このドキュメントには、Oracle System Monitoring Plug-in for IBM DB2 Database に関する簡単な説明、プラグインでサポートされるバージョンの詳細、およびプラグインのインストールの前提条件が記載されています。また、プラグインのダウンロード、インストール、検査および検証方法の手順も記載されています。

## 1 説明

Oracle System Monitoring Plug-in for IBM DB2 Database は、Oracle Enterprise Manager Grid Control を拡張して、IBM DB2 Database インスタンスの管理に対するサポートを追加します。Grid Control 環境にプラグインをデプロイすると、次の管理機能を取得できません。

- DB2 Database インスタンスの監視。
- DB2 Database インスタンスの構成データの収集および構成の変更の追跡。
- 監視ターゲットおよび構成データに設定されたしきい値に基づくアラートおよび違反の表示。
- 収集データに基づいた豊富なレポートの提供。
- リモート・エージェントによる監視のサポート。リモート監視の場合、IBM DB2 と同じホスト上にエージェントを配置する必要はありません。

## 2 サポートされるプラットフォーム

プラグインは、Linux、UNIX および Microsoft Windows 上で IBM DB2 インスタンスの監視をサポートします。

## 3 サポートされるバージョン

このプラグインでは、次のバージョンの製品がサポートされます。

- Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.1 以上 - Oracle Management Service および Oracle Management Agent
- 次のバージョンの IBM DB2 Universal Database (UDB) for Linux, UNIX, and Windows (LUW):
  - バージョン 9.1
  - バージョン 8.2 FixPak 4 (バージョン 8.1 FixPak 11 と同等)
  - バージョン 8.2 FixPak 3 (バージョン 8.1 FixPak 10 と同等)
  - バージョン 8.2 FixPak 2 (バージョン 8.1 FixPak 9 と同等)

**ORACLE®**

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Enterprise Manager は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

## 4 前提条件

プラグインを使用する前に、次の前提条件を設定する必要があります。

- Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.2 以上
- IBM DB2 Universal JDBC Type 4 ドライバ for IBM DB2 Database ([「JDBC ドライバの設定」](#)を参照)
- IBM DB2 Universal Database

## 5 JDBC ドライバの設定

JDBC ドライバは IBM から入手可能です。JDBC ドライバは次のファイルで構成されており、エージェントからこれらのファイルへのアクセスを可能にする必要があります。

- db2jcc.jar
- db2jcc\_javax.jar
- db2jcc\_license\_cu.jar

IBM DB2 Universal Type 4 JDBC ドライバを設定するには、次の操作を実行します。

1. agent/sysman/ に jdbcdriver ディレクトリを作成し、このディレクトリに前述の .jar ファイルを格納します。
2. 個々のドライバ .jar ファイルの場所を、\$ORACLE\_HOME/sysman/config ディレクトリの classpath.lst ファイルに追加します。
3. OS クラスタを構成するシステムにエージェントがインストールされている場合、\$ORACLE\_HOME/<node\_name>/sysman/config ディレクトリ (node\_name はエージェントがインストールされているシステムの名前) の classpath.lst ファイルを編集する必要があります。

classpath.lst ファイルがない場合は作成します。たとえば、UNIX 環境の classpath.lst ファイルは次に示す例のようになります。

```
/home/usera/agent/sysman/jdbcdriver/ibm/db2jcc.jar  
/home/usera/agent/sysman/jdbcdriver/ibm/db2jcc_javax.jar  
/home/usera/agent/sysman/jdbcdriver/ibm/db2jcc_license_cu.jar
```

## 6 プラグインのデプロイ

前提条件を満たしていることを確認した後、次の手順に従ってプラグインをデプロイします。

1. IBM DB2 Database プラグインのアーカイブを、ブラウザを起動しているデスクトップまたはコンピュータにダウンロードします。アーカイブは、Oracle Technology Network (OTN) からダウンロードできます。
2. スーパー管理者として Enterprise Manager Grid Control にログインします。
3. Grid Control ホームページの右上隅にある「設定」リンクをクリックし、次に「設定」ページの左側にある「管理プラグイン」リンクをクリックします。
4. 「インポート」をクリックします。
5. 「参照」をクリックしてプラグインのアーカイブを選択します。
6. 「リスト・アーカイブ」をクリックします。
7. プラグインを選択して「OK」をクリックします。
8. プラグインのデプロイ先のエージェントすべてに優先資格証明を設定したことを確認します。

9. 「管理プラグイン」 ページで、DB2 Database プラグインの「**デプロイ**」列のアイコンをクリックします。管理プラグインのデプロイ・ウィザードが表示されます。
10. 「**エージェントの追加**」 をクリックして、プラグインのデプロイ先のエージェントを1つ以上選択します。ウィザードが再び表示され、選択したエージェントが表示されます。
11. 「**次へ**」 をクリックし、「**終了**」 をクリックします。

優先資格証明が設定されていないというエラー・メッセージが表示された場合、「プリファレンス」 ページに移動してエージェント・ターゲット・タイプの優先資格証明を追加します。

## 7 監視対象インスタンスの追加

プラグインを正常にデプロイした後、プラグイン・ターゲットを集中監視および管理するために、次の手順に従って Grid Control に追加します。

1. プラグインをデプロイしたエージェントのホームページで、「**追加**」ドロップダウン・リストから **IBM DB2 Database** ターゲット・タイプを選択し、「**実行**」 をクリックします。IBM DB2 Database の追加ページが表示されます。
2. プロパティに次の情報を入力します。

- **名前**: プラグインの名前。
- **JDBC URL**: 次の形式による、DB2 JDBC ドライバの接続 URL の名前。

```
jdbc:db2://<server>:<port>/<database>
```

JDBC URL の引数はデータソースを表します。パラメータの定義は次のとおりです。

- **jdbc:db2**: DB2 UDB サーバーへの接続を表します。
- **server**: データベース・サーバーのドメイン名または IP アドレス。
- **port**: データベース・サーバーに割り当てられた TCP/IP サーバー・ポート番号 (0 ~ 65535 の整数)。
- **database**: DB2 クライアントの DB2 データベース・カタログ・エントリを参照する、データベースの別名。

データベース名は、使用中の DB2 サーバーによって次のように決定されます。

**Linux、UNIX および Windows 用 DB2 サーバー**: Linux、UNIX および Windows 用 DB2 UDB サーバーへの接続の場合、database はインストール時に定義されたデータベース名です。

- **JDBC ドライバ**: DB2 Universal JDBC ドライバの名前。次のように Class.forName メソッドを起動してドライバをロードします。

```
com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
```

- **ユーザー名**: データベースの有効なユーザー名。
- **パスワード**: ユーザーのパスワード。

3. 「**接続テスト**」 をクリックして、入力したパラメータが正しいことを確認します。
4. 接続テストが成功した場合、手順 2 の暗号化されたパラメータを再入力して、「**OK**」 をクリックします。

---

---

**注意：** プラグインをデプロイして、環境内で1つ以上のターゲットを監視するように構成した後、プラグインの監視設定をカスタマイズできます。これにより、環境の特別な要件を満たすようにメトリックの収集間隔およびしきい値の設定を変更できます。メトリックの収集を1つ以上無効にした場合、メトリックなどに関するレポートに影響を与える可能性があります。

---

---

## 8 プラグインの検査および検証

プラグインでデータの収集が開始するまで数分間待機した後、次の手順に従って、プラグイン・ターゲットが Enterprise Manager で適切に監視されていることを検査および検証します。

1. エージェントのホームページの「監視ターゲット」表で、IBM DB2 Database ターゲット・リンクをクリックします。IBM DB2 Database のホームページが表示されます。
2. 「メトリック」表に、メトリック収集エラーが報告されていないことを確認します。
3. 「レポート」プロパティ・ページを選択して、レポートが表示されていることを確認します。
4. 「構成」セクションの「構成の表示」リンクをクリックして、構成データが表示されていることを確認します。構成データがすぐに表示されない場合は、「構成の表示」ページで「リフレッシュ」をクリックします。

## 9 プラグインのアンデプロイ

プラグインをエージェントからアンデプロイするには、次の手順を実行します。

1. スーパー管理者として Enterprise Manager Grid Control にログインします。
2. 「ターゲット」タブを選択して、次に「すべてのターゲット」サブタブを選択します。
3. DB2 Database プラグイン・ターゲットを選択して「削除」をクリックします。この手順は、プラグインのすべてのインスタンスに対して実行する必要があります。
4. プラグインのデプロイ先のエージェントに優先資格証明が設定されていることを確認します。
5. 「すべてのターゲット」ページの右上隅にある「設定」リンクをクリックし、次に「設定」ページの左側にある「管理プラグイン」リンクをクリックします。「管理プラグイン」ページが表示されます。
6. IBM DB2 Database プラグインの「アンデプロイ」列のアイコンをクリックします。「管理プラグインのアンデプロイ」ページが表示されます。
7. DB2 Database 管理プラグインに現在デプロイされているエージェントをすべて選択して「OK」をクリックします。

プラグインを Enterprise Manager から完全に削除するには、システムのすべてのエージェントからアンデプロイする必要があります。

8. 「管理プラグイン」ページで IBM DB2 Database 管理プラグインを選択して、「削除」をクリックします。

## 10 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

### Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

## 11 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

### Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

### 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

### 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

### その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

---

---

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

---

---